

## 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 6 月 3 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2007 年度～2008 年度  
 課題番号：19592474  
 研究課題名（和文） 臨床と教育の両者が求めるフィジカルアセスメント教育の  
 ミニмум・エッセンシャルズ  
 研究課題名（英文）  
 研究代表者  
 篠崎 恵美子（SHINOZAKI EMIKO）  
 聖隷クリストファー大学・看護学部・助教  
 研究者番号：50434577

研究成果の概要：フィジカルアセスメントは、適切なケアを実施するための観察力・的確な看護判断能力のコアとなる要素の一つであり、より看護師に求められている技術である。看護基礎教育で効果的・効率的に教育するために、本研究は、呼吸に焦点をあて、臨床と教育の両者が求める看護基礎教育のフィジカルアセスメント教育の最低限必要な項目（ミニмум・エッセンシャルズ）を明らかにすることを目的に行った。結果、29 項目が明らかになった。

## 交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護教育，フィジカルアセスメント，ミニмум・エッセンシャルズ

## 1. 研究開始当初の背景

看護を取り巻く環境は大きく変化し、看護師の活躍の場が広がり、医療施設内に限らず、中間施設や在宅等の看護師が主体となって患者を見る現場での看護師の役割が拡大している。したがって、看護基礎教育において

適切な観察と的確な看護判断能力、さらには、その看護判断に基づいた適切なケアが行えるような教育が求められている。適切なケアを実施するための観察力・的確な看護判断能力にはフィジカルアセスメントスキルはコアとなる能力を構成する要素の一つである。

教育の重要性・必要性はコンセンサスを得ているが、フィジカルアセスメント教育は、単位数・時間数・開講年次・科目名・等様々であり、フィジカルアセスメントの教育は模索状態にある現状もある（篠崎・2006）。

以上のことより、看護基礎教育の限られた時間で、人々が求める適切な観察・判断力を修得させるには、フィジカルアセスメントの教育で全てを教えるのではなく、何をどの程度教えるのか、つまり最小限必要不可欠な教育内容を明確にし、効果的な教育方法を検討することが重要である。

また、現在の臨床において教育と現場の乖離も大きな問題となっている。したがって看護を取り巻く環境の変化の中で、このような看護技術をどのように教育するのか、教育の現場と臨床の場が協働し、検討していく必要性あがる。

## 2．研究の目的

臨床の看護実践家と教育の専門家の両者が考えるフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズを明らかにすることを目的とした。

## 3．研究の方法

本研究は、先行研究（篠崎ら、2007）に続く以下に示す3つの調査から構成された

(1) 臨床の看護実践家のフィジカルアセスメントについての認識調査

病床数数200床以上の救急告示病院において、通常は看護業務を行い、教育を兼任している7施設28人の看護師を対象とした。インタビュー調査を実施し、質的に分析した。

(2) 看護基礎教育におけるフィジカルアセスメント教育の現状調査

全国の看護又は看護系大学の教員で、フィジカルアセスメントまたはそれに相当する科目を担当する教員で同意の得られた76人(61校)を対象に質問紙調査を行った。

(3) 臨床と教育の両者が考える呼吸に関するフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズ調査

コンセンサス・メソッドの一つであるデルファイ法を用いて臨床の看護実践家と教育の実践家への2つの調査を行った。「看護基礎教育におけるフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズ」(篠崎ら、2007)で作成された質問紙を用いた。ミニマム・エッセンシャルズを抽出するため「講義時間が現行の60%に短縮されても教育すべきだと思う項目」の回答を求め、その同意率が90%以上を「コンセンサスを得た」すなわちミニマム・エッセンシャルズであるとした。

臨床の看護実践家の考える看護基礎教育における呼吸に関するフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズ調査

臨床看護実践家の調査では、特定機能病院または地域医療支援病院において、臨床でフィジカルアセスメントを実践している、かつ新人の看護技術の到達レベルを把握している、臨床で教育を担当しているという条件に該当する看護師210人(41施設)を対象に3ラウンドのデルファイ法を実施した。第1ラウンドでは「教育の実践家が考える看護基礎教育におけるフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズ」として、篠崎らの調査結果を添付した。

教育の実践家が考える看護基礎教育における呼吸に関するフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズ調査

教育実践家の調査では、全国の看護・看護系大学の教員で、フィジカルアセスメントまたはそれに該当する科目の担当教員 76 人( 61 校 ) を対象に 3 ラウンドのデルファイ法を実施した。第 1 ラウンドでは、臨床看護実践家が考える看護基礎教育におけるフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズ調査の結果を添付した。

#### 4. 研究成果

( 1 ) 臨床の看護実践家は、フィジカルアセスメントについて【看護に新しく入ってきたもの】であるが、【無意識に行われている日常の観察方法】であり、【看護のツール】の 1 つであるということは、臨床での経験において認識していた。臨床看護師はフィジカルアセスメントの必要性は認識していたが、「学んだことがないし自信がもてない」と戸惑っている現状があった。臨床現場においてフィジカルアセスメントの教育内容を明確に提示し、教育・実践を促すことの必要性が示された。

( 2 ) 2007 年度フィジカルアセスメント教育の現状は、様々な形態で実施されていた。

( 3 ) 臨床と教育の両者が看護基礎教育に求めるフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズは、以下の 29 項目であった。

構造と機能は「肺葉の位置」「胸郭の局所または表面の目印(位置・指標線)」「気管・気管支の位置」「呼吸のしくみ(生理)」「ガス交換」、インタビューは「現在の健康状態」「現

症(現病歴)」「既往歴」「生活歴(環境、職業)」「喫煙歴」「基礎(基本)情報」、視診は「呼吸が安楽か努力性か」「呼吸の形式」「胸郭の動きの左右対称性」「呼吸のリズム・パターン」「呼吸数」「チアノーゼの有無」「ばち状指の有無」「異常呼吸の有無」、触診は「皮膚と皮下の状態」、聴診は「呼気と吸気の割合」「聴診部位と呼吸音の関係(どこで何が聴こえたか)」「呼吸音異常:聴取部位との関係」「呼吸音左右差の有無」「異常音(2次性音、副雑音)の有無」「異常呼吸音の識別」、計測データは「経皮的酸素飽和度モニターによる SpO<sub>2</sub>」「血液ガス所見」「呼吸機能検査所見」。

#### 5. 主な発表論文等

( 研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線 )

{ 雑誌論文 } ( 計 3 件 )

EMIKO SHINOZAKI, TOYOAKI YAMAUCHI, Nursing competencies for physical assessment of respiratory system in Japan. Nursing & Health Sciences, 2009, 査読有

篠崎恵美子, 臨床と教育の両者が求める呼吸に関するフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズ, 名古屋大学医学系研究科博士論文, 2009.

篠崎恵美子, 山内豊明, 看護基礎教育における呼吸に関するフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズ, 日本看護科学学会誌, 27 巻, 21~29, 2007.

[学会発表](計4件)

Emiko Shinozaki, Toyoaki Yamauchi.  
Minimum essentials competencies in Japanese basic nursing education for physical assessment with particular emphasis on the respiratory system. The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2009年9月20日, 神戸.

篠崎恵美子, 山内豊明. 臨床の看護実践家の考えるフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズ, 第28回日本看護科学学会学術集会, 2008年12月14日, 福岡.

篠崎恵美子, 山内豊明. 2007年度全国看護・看護系大学におけるフィジカルアセスメント教育の現状, 第10回日本看護医療学会学術集会, 2008年9月21日, 浜松.

Emiko Shinozaki, Toyoaki Yamauchi.  
Minimum essentials of Physical assessment on Respiratory system in basic nursing education in Japan. Sigma Theta Tau International 39<sup>th</sup> Biennial Convention. 2007年11月5日, アメリカ.

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

篠崎 恵美子 (SHINOZAKI EMIKO)  
聖隷クリストファー大学・看護学部・助教  
研究者番号: 50434577

### (2)研究分担者

### (3)連携研究者

山内 豊明 (YAMAUCHI TOYOAKI)  
名古屋大学・医学部保健学科・教授  
研究者番号: 20301830